

第五十九回帝國議會
衆議院

關稅定率法中改正法律案委員會會議錄(速)第二回

會議

昭和六年三月十六日(月曜日)午後一時
二十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 永田善三郎君

理事 手代木隆吉君

理事 多田 滿長君

理事 岩本 武助君

飯塚春太郎君

前田房之助君

小野耕一郎君

今井 健彦君

木暮武太夫君

村田不二三君

同月十四日委員津崎尙武君辭任ニ付其
ノ補闕トシテ多木久米次郎君ヲ議長ニ
於テ選定セリ

同日理事津崎尙武君委員辭任ニ付其
補闕トシテ同月十六日土倉宗明君理事
ニ當選セリ

同月十四日關稅定率法中改正法律案
(川島正次郎君外九名提出)、關稅定率
法中改正法律案(本田恒之君外五名提
出)及關稅定率法中改正法律案(淺川浩
君外四名提出)ノ審査ヲ本委員ニ付託
セラレタリ

出席國務大臣左ノ如シ

大藏大臣 井上準之助君

出席政府委員左ノ如シ

大藏參與官 勝 正憲君

農林省山林局長 平熊 友明君

商工省貿易局長 立石 信郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

關稅定率法中改正法律案(政府提出)

○永田委員長 是ヨリ開會致シマス、

御諮リ致スコトガアリマス、理事

津崎尙武君ガ委員ヲ辭任サレマス

テ理事モ同ジク辭任サレマス、候

補者ノ補闕ヲ選舉シタイト思ヒマス

ガ……

「委員長ノ御指名ニ願ヒマス」ト

呼フ者アリ

○永田委員長 ソレデハ委員長カラ指

名致シマス——土倉宗明君ヲ理事ニ御

願ヒ致シマス、尙ホ津崎君ノ補闕ニ多

木久米次郎君ガ委員ニナラシメシタ

是ヨリ關稅定率法ノ審議ニ入リマス

ガ、大藏大臣ガ見エマシタカラ、御説

明ヲ願ヒタイト思ヒマス、尙ホ此委員

會ニハ色々ナ案ガ併託サレテ居リマス

シ、今後モ亦併託サレコト、思ヒマ

スガ、是ハ理事諸君ト御協議ノ上、順

次議題ニ供スルコトニシマシテ、差當

リ政府提出案ニ付キマシテ審議ヲ進メ

タイト思ヒマス、但シ關稅定率法ノ改

正ハ、別表ノ改正ニナツテ居リマス

カラ、隨テ別表全部ガ議題ニ供セラレ

テ居ル譯デアリマスカラ、御質問ガア

レバ、ソレ等ノ全般ニ互ルコトハ一向

差支ナイコト、委員長ハ考ヘテ居リマ

ス

○井上國務大臣 關稅定率法中改正法

律案ノ大要ニ付キマシテ御説明申上ゲ

マス、今回ノ改正ハ人造絹及木材ニ關

スルモノデアリマスカラ、先ヅ人造絹

ニ關シマシテ御説明申上ゲタイト思ヒ

マス、人絹ニ對スル現行稅率每百斤百

二十五圓ト云フノハ、大正十五年一般

改正ニ依ツテ定タノデアリマスガ、其

後大分狀況ガ變化シタノデアリマシ

テ、我國ニ於ケル人絹工業ハ爾來洵ニ

顯著ナル發達ヲ遂ゲマシテ、生産高ノ

如キモ大正七年ニ七萬六千斤デアリマ

シタモノガ、昨年ノ昭和五年ニハ二

七百六十萬斤トナリマシテ、現在ニ於

キマシテハ、世界有數ノ人絹製造國ト

云フコトガ出來ルデアリマス、而シ

テ其生産品ノ大半ハ輸出入絹織物ノ原

付託議案

關稅定率法中改正法律案(政府提出)

關稅定率法中改正法律案(川島正次郎君外九名提出)

關稅定率法中改正法律案(本田恒之君外五名提出)

關稅定率法中改正法律案(淺川浩君外四名提出)

料ニ使用サレルノデアリマシテ、人絹

製造業ノ發達ハ、其製品ノ輸出ニ負フ

所ガ少クナイノデアリマス、又人絹ノ

輸入狀況ハドウデアアルカト申シマス、

昭和五年ニハ約六十四萬斤ト云フコト

ニナツテ居リマス、併シ是ハ織物ヲ製造

シタ上、海外ニ輸出シテ關稅ノ拂戻ヲ

受ケル目的デ輸入サレタモノガ大部分

デアルト認メルノデアリマス、右ノ

外人絹織物ノ製造ヲ目的ト致シマス保

稅工場ニ入リマシタモノガ、昭和五年

ニハ八十六萬斤程アリマス、右ノ事情

カラ綜合致シマス、今日内地ニ於テ

需用サレル人絹ハ、主トシテ輸出入絹

織物製造ノ爲ニ使用セラレルモノデア

ルト云フコトガ出來マス

ソコデ其輸出入絹織物製造業ノコトデ

アリマスガ、此製造業ハ近來非常ニ發

達シテ來タノデアリマシテ、昭和五年

ニハ三千五百萬斤ト云フ巨額ナ物ヲ輸

出シタノデアリマス、是ハ將來有望ナ

我國ノ産業ト認メラレルノデアリマス

カラ、原料デアリマス人絹ヲ有利ニ仕

入レルコトガ出來ルヤウニサセマシ

テ、之ヲ獎勵スルコトヲ適當トスルヤ

ウニ考ヘラレルノデアリマス、一方又

人絹ノ現行關稅率ハ前ニ申上ゲマシタ
如ク、大正十五年ニ改正セラレタノデ
アリマスガ、人絹ノ市價ガ斯業ノ發達
ト共ニ非常ニ下落シマシタ結果、昭和
五年ノ輸入平均價格ニ對シテハ約八割
五分ト云フ高率ニ當ッテ居ルノデアリ
マス、尤モ保稅工場ト云フ制度ガアリ
マス限リ輸出入絹織物業者ハ之ヲ利用
スレバ宜シイト云フコトニモナリマス
ガ、ソコニドウシテモ保稅工場ヲ利用
スルコトノ出來ルモノト出來ナイモノ
トガ生ジマシテ、其間ニ生産費ノ相違
ヲ來スト云フコトニナリ、此輸出入絹
織物業全體トシテハ誠ニ面白カラ
ヌ狀況ニナッテ參リマスシ、又保稅工場
ノ出願ニ對シ無制限ニ特許致シマス
ト、内地人絹業ニ重大ナ影響ヲ與フル
コトニナリマスノデ、人絹ノ現行關稅
率ヲ適度ニ引下ゲテ調和ヲ計ルコトガ
宜シクハナイカト考ヘラレルノデアリ
マス、勿論我國ニ於ケル人絹工業ニ對
スル影響ヲモ考慮シナケレバナラナイ
ノデアリマシテ、此際急激ニ關稅率ニ
低減ヲ加ヘルコトハ差控ヘナケレバナ
ラナイノデアリマス、ソレデ政府ニ於
キマシテハ右ノ各種ノ事情ヲ考慮ニ入
レマシタ上、差當リ人絹ニ對スル關稅
率ヲ每百斤七五圓ニ引下ゲルコトニ致
シタノデアリマス

次ニ木材ニ關シテ御説明申上ゲマス、

今回ノ改正案ハ輸入稅表第六百十二號
己ノ四ニ當リマス、モミ屬、タウヒ屬、
マツ屬、カラマツ屬ノ樹種、換言シマ
スルト、所謂沿海州材等ニ關スルモノ
デアリマス、此ノ沿海州材等ニ付キマ
シテハ昭和四年改正當時、各種ノ事情
カラ、他ノ樹種ノ如ク稅率ヲ引上ゲル
トカ、又ハ新ニ課稅スルコトヲシナカッ
タノデアリマス、所ガ稅率改正後ノ
輸入狀況ヲ見マスルト針葉樹材全體ニ
付テハ、約三割九分ノ減ト云フ大勢デ
アリマスガ、己ノ二ヒノキ屬ハ五十六
萬六千石カラ二十七萬三千石ヘ五割二
分、己ノ三ネヅコ屬及ツガ屬ハ五百八
十六萬石カラ百九十九萬二千石ヘ六割
六分、己ノ五其ノ他ニ當ル「ドグラスフ
アー等」ハ六百十六萬四千石ヨリ四百
一萬八千石ヘ三割五分ノ減少ヲ示シテ
居リマス、之等ハ何レモ、前回稅率ノ
引上又ハ新規課稅ヲ見タ種類ノモノデ
アリマス、之ニ反シ、己ノ四ノ所謂沿
海州材等ハ百五十三萬九千石ヨリ二百
三十二萬四千石ヘ、實ニ五割一分ノ増
加ヲ示シテ居ルノデアリマス、右等ノ
狀況ヨリ見マスルニ是等沿海州材等ト
他ノ木材トノ間ノ稅率ノ鈞合ヲ得セシ
ムル必要ガアリ、尙ホ前回改正ノ際考
慮サレマシタ事情モ今日ニ於テハ變化
致シテ居リマスルノデ、適當ニ其ノ稅
率ヲ改正スル必要ガアルヤウニ認メラ

レルノデアリマス、右ノ事情ニ依リマ
シテ、政府ハ輸入稅表第六百十二號己
ノ四ニ屬スル木材等ノ關稅率ヲ引上ゲ
ルコトニ致シマシタ、其程度ニ付キマ
シテハ大體現行法中ノ己ノ三ネヅコ屬
及ツガ屬ノモノト其内地材ニ及ボス影
響ノ程度ガ略々類似シテ居リマスル關係
上、丸太及割材ニ對シマシテ、己ノ三
ニ屬スル樹種ノ丸太割材ノ昭和五年輸
入平均價格ニ對スル從價換算率ト同一
ノ率ヲ配シ、板材、小角材等ノ製品ニ
付テハ、現在ノ己ノ四ニ於ケル丸太割
材ト製材トノ開キヲ踏襲シマシテ、三
分ノ間差ヲ附スルコトニ致シタ次第デ
アルノデアリマス

尙ホ一言附加ヘテ置キ度イノハ、第五
十六回帝國議會ニ於ケル附帶決議ノコ
トデアリマス、其趣旨ハ木材ニ關スル
改正案ハ細目ノ點ニ於テ均衡ヲ失スル
モノガアルカラ、政府ハ速ニ調査ヲ遂
ゲ之ガ改正案ヲ次ノ議會ニ提出スベシ
ト云フノデアリマス、右ノ均衡ヲ失
スルト云フコトデ當時議論ニナリマ
シタノハ、現行稅率ガ「レッドシダー」
ニ輕ク「ヘムロック」ニ重イト云フ點デ
アリマスガ、稅率改正後ノ狀況トシマ
シテハ、「レッドシダー」ト「ヘムロック」
トノ輸入減少割合ハ大體同様デアルト
云フ有様デアリマス、又丸太ト割材ニ
對シ同一率ヲ盛ルノハ宜シクナイ、是
ハ負擔ノ均衡ヲ失スルモノデアルト云
フコトデアッタノデアリマスガ、此意見
ニ付キマシテモ「レッドシダー」ト「ヘ
ムロック」トノ關係係申上ゲマシタト
略々同様デアアルノデアリマス、右ノ如
キ狀況デアリマスカラ、今日右ノ附帶
決議ニ基キ、己ノ三ニ對スル現行輸入
稅表ノ分類及ビ稅率ヲ改正スルコトハ
其必要ガナイモノト考ヘルノデアリマ
ス、何卒御審査ノ上御協贊ヲ御願ヒス
ル次第デアリマス

○永田委員長 一寸委員長カラ政府ニ

御尋致シタイノデスガ、只今五十六議
會ノ附帶決議ニ對スル御説明ヲ承リマ
シタガ、昨年ノ春ノ特別議會ニ於キマ
シテモ關稅定率法ノ改正ガ二三アリマ
シタ、其節政友會民政黨一致シマシテ
贊成致シマシタガ、併シ其際附帶決議
ガ付イテ居リマス、即チ產業界ノ萎靡
衰退ニ對シテ關稅定率法ノ改正ニ依ッ
テ之ヲ救フベキモノガアルナラバ、政
府ニ努力ヲシテ貫ヒタイ、斯ウ云フコ
トガ趣旨ニナッテ居リマシテ、文章ハ洵
ニ輕イ文章ニナッテ居リマスルガ、内容
ニ於キマシテハ相當此議會マデニハ關
稅改正ニ御考慮ヲ願ヒタイト云フコト
ヲ附帶決議ヲシテ置イタ譯デアリマス
ガ、今回ノ提案ヲ見マスト云フト、木
材關稅、是ハ別ニ問題デハナイト思ヒ
マスガ、產業經濟界ノ問題トシテ人絹

ノミニ限ラレテ居リマスガ、其他ノモ
ノニ對シテハ尙ホ調査未了デアルノデ
アリマスルカ、又政府ハ餘リ關稅ノコ
トハ御考ヘニナツテ居ナカッタノデアリ
マスルカ、其點ヲ前議會ノ行懸リ上、
委員長カラ一應御尋致シテ置キマス

○井上國務大臣 第五十六議會ノ附帶
決議ニ付キマシテハ只今私ガ説明シタ
中ニ申上ゲマシタヤウニ、五十六議會
ノ關稅改正ヲ致シマシタ後ノ此兩者ノ
輸入ノ數量等ニ付キマシテ、段々研究
シテ見マス、引上ゲ又變更スル必要
ガナイヤウニ實ハ結論ヲ得タノデアリ
マスカラ、只今政府委員カラ輸入關稅
引上後ノ輸入數量ニ付テ一應説明致サ
セマシテ、ソレカラ私カラ申上ゲルコ
トニシタイト思ヒマス

○永田委員長 一寸御考違ト思ヒマス
ルガ、私ノ御尋シタノハ、前議會ニ於
キマシテ產業界ノ振興ヲ圖ル爲ニ關稅
ヲ適用スベキモノガアルナラバ、御考
ヘ置キヲ願ヒタイ、斯ウ云フ意味カラ
ノ附帶決議ガ附イテ居ル筈デアリマス、
其點デアリマス

○井上國務大臣 前議會ノ時ノ希望附
帶決議ノ事ニ付テ申上ゲマス、其後
經濟界ニ於テ一番問題トナリマシタモ
ノハ、銑鐵及ビ鋼材ノ輸入ニ付テノ關
稅引上ノ問題デアッタノデアリマス、御
承知ノ如ク今日ハ外國ノ鐵ガ安クナッ

タ、銑鐵デ申シマス、印度ノ鐵ガ非
常ニ投資リヲスルノデ、一方ニ於テハ
關稅ヲ引上ゲ、一方ニ於テハ日本ノ製
鐵業ハ政府ノ製鐵所モ民間ノ製鐵所
モ、共ニ合同シテ、合理化ヲ圖ツテ、現
在ノ生産費ヨリモ之ヲ下ゲテ、ソレヲ
土臺トシテ關稅ヲ研究シヨウ、ソレデ
ナイト唯外國カラ「ダンピング」同様
ノ安イ値段段輸入サレルカラト云ツテ、
日本ノ關稅ヲ上ゲテモ、消費者ハソ
レニ依ツテ非常ナ打撃ヲ蒙ルガ、製

造業者ニハソレ程ノ利益ヲ與ヘナイト
云フコトガアルカラ、ソレデハ關稅引
上ノ目的ヲ達シナイト云フコトデ、左
様ナ計畫ヲ段々進メテ見マシタガ、結
局其程度マデ進ミマセヌノデ、今日ニ
於テハ關稅引上ヲシテモ、ソレハ製鐵
業者ノ十分ナル保護ニナラズシテ、寧
ろ消費者ニ對シテ非常ニ害ニナルト云
フヤウナコトデ、此製鐵ノ保護關稅ハ
引上ノ程度ニマデ至ラナカッタノデア
リマスガ、ソレ以外ノ物ニモ種々關稅
引上ノ議モアリマスシ、又一方ニハ「ダ
ンピング・ロー」ノ適用ノ請求モアルノ
デアリマスガ、御承知ノ通り、世界ノ
經濟界ニ斯ノ如キ急激ナル變化ノ來タ
時デアリマスカラ、果シテ此「ダンピ
ング・ロー」ノ簡條ノ適用ダケデ足リル
カ、或ハ根本的ニ關稅ノ引上ヲヤラナ
ケレバナラヌカト云フヤウナコトヲ考

ヘマス、此兩者ノ區別ハ殆ド付カナ
イノデ、是ハ寧ろ「ダンピング」ニ近
イノデハナカラウカト云フノデ、調査
シテ見マス、生産國ノ物價下落ノ爲
ニ安イノデアツテ、「ダンピング」デハナ
イト云フヤウナコトモアリマシテ、今
日茲ニ出テ居リマス木材ノ關稅引上ゲ
以外ニハ、政府案トシテ議會ニ提案ス
ル運ビニ至ツテ居ラヌノデアリマスカ
ラ、ソレダケノコトヲ申上ゲテ置キマ
ス

○板谷委員 議事進行ニ付キマシテ一
言シタイト思ヒマス、政府カラ出サレ
テ居ル法案ニ對シテハ、恐ラク直接ノ
質問ハ極メテ簡單デアラウト私ハ考ヘ
ルノデアリマス、吾々委員ノ大部分ハ
之ニ關聯シテ政府ノ關稅政策ニ關スル
根本方針或ハ我國ノ經濟ニ於テ、關稅
ノ改正ヲ要スベキ其品目ニ付テ質問シ
タイト考ヘマスガ、議員カラ提出サレ
テ居ル法律案即チ關稅改正法案ヲ同時
ニ御審議ヲ願フ方ガ議事ノ進行上都合
ガ好イヤウニ考ヘマスカラ、委員長ニ
於テ然ルベク御取計ヒヲ願ヒマス

○永田委員長 只今板谷サンノ御話ハ、
私ハ先程政府案ヲ先以テ議題ニ供スル
ト云フコトヲ申上ゲマシタガ、ソレニ
付キマシテ、關稅定率法ノ改正ハ別表
全部ニ互ツテ常ニ論ゼラレルノデアリ
マスカラ、別段ニ本委員會ニ併託サレ

タ案ト一緒ニ議スルト云フコトニ致シ
マセヌデモ、自由ニ御質問等ハ出來マ
スシ、且ツ私共ノ方ノ理事諸君モ皆集ッ
テ居リマセヌノデ、議事進行ニ對スル
協議ヲスル機會モアリマセヌデシタカ
ラ、尙ホ機會ヲ得テ御相談ノ上デ申上
ゲルト先刻御答ヲシテ置イタ次第デア
リマス、御意思ハ諒承シテ居リマスガ、
他ノ機會ニ於テ御相談申上ゲタイト思
ヒマス

○板谷委員 委員長ノ御意思ハ諒承致
シマシタ、ソコデ私ハ大藏大臣ニ對シ
マシテ、我國ノ關稅政策ニ對スル方針
ニ付テ伺ヒタイト思ヒマス、只今大藏
大臣ノ御説明ニ依リマシテモ、或ハ先
達テ本會議ニ於ケル農林大臣ノ御答辯
ニ依リマシテモ、今回ノ關稅改正ハ稅
收入ヲ得ルノガ目的デハナイ、即チ一
般ノ稅收入ト權衡ヲ得セシムル爲ニ之
ヲ引上グルノデアアル、斯ウ云フ御説明
ガアッタノデアリマス、即チ言換ヘレ
バ、現在我國ノ產業中ノ需要供給ノ關
係ヲ考慮シテ將來我國ノ產業ヲ保護ス
ル、斯ウ云フ意味ニ解釋シテ宜シウゴ
ザイマス

○井上國務大臣 簡單ニ板谷君ノ如ク
言ハレテモサウダトハ少シ申上ゲ兼ネ
マスガ、殊ニ木材關稅、今日引上ゲマ
シタ種類ハ、他ノ稅率ト權衡ヲ得テ居
ラヌノデアリマス、ソレデソレヲ今日

引上ゲマスコトハ、昭和四年度ノ改正ノ時ニ特別ノ事情ノ爲ニ安クシテ置イタモノヲ今日、何ト申シマスカ、是正スルトデモ申シマスカ、サウ云フ意味ニ私ハ考ヘテ、是ノ改正提案ヲシタノデアリマス、即チ度々本會議デモ申上ゲ、又只今モ申上ゲマシタ如ク、今般引上ゲマシタ木材ハ、昭和四年ノ關稅改正後ノ輸入量ニ於テ非常ニ殖エル所ヲ見マス、其時ハ確カニ不公平デアッタ、又不公平ニスベキ理由モ其時ニハアツタト考ヘルノデアリマス、然ルニ今日ソレヲ其儘ニシテ置ク理由モナクナツタノデアリマスカラ、ソレデ之ヲ正シクシヨウト云フコトニ過ギマセヌ、隨テ此一事ヲ以テ現政府ノ關稅ニ對スル政策ヲ、全部産業ノ保護政策ト取ツテ宜シイカ、斯ウ仰セラレマス、少シ其點ハ私ガ説明スルヤウナ意味ニ於テ、多少ハ差ハアリマスガ、ソレデ宜カラウ、サウ御諒承ヲ願ッテ置キマス

○板谷委員 私ハ大藏大臣ニ最モ御考慮ヲ願ハナケレバナラヌコトハ、私ガ申上ゲヌデモ既ニ御分リニナツテ居ルコト、思ヒマスガ、世界各國ハ殆ド自給自足デアアル、外國ハ産業ヲ保護センガ爲ニ自給自足ノ主義ヲ執ッテ居ルノデアリマス、一例ヲ申上ゲマスナラバ、北海道ニ於ケル青豌豆、或ハ莢豌豆類ノ如キハ、戰爭以來相當ニ外國ニ行ッタモノデアアル、然ルニ亞米利加ニ於キマシテハ、從來青豌豆ニ對シテ百封度五十仙ノ關稅デアッタモノヲ、イキナリ一度ニ五十仙上ゲタ、又莢豌豆類ノ如キハ從來百封度一弗二十五仙デアッタモノヲ三弗ニ上ゲタト云フヤウニ、非常ニ重イ關稅ヲ課ケテ居ル、更ニ又濠洲ニ於キマシテハ、北海道カラ輸出サレル木材ニ對シテ、從來百石六百圓デアッタモノヲ九百三十圓、殆ド禁止的ノ關稅ヲ課ケテ居ルヤウナ狀態デアリマス、デアリマスカラ現内閣ト致シマシテモ將來我國ノ國產ノ中ニ發達スベキ運命ニアルモノ、又或ハ現在生産費ヲ償ハナイヤウナ狀態デアアル、是ガ發達スルコトヲ妨ゲルト云フヤウナ理由ガアルト致シマシタナラバ、之ヲ除去スルト云フ御意思ガアリマスカドウカ、只今委員長カラ御話ニナツタ如ク、前議會ニ於キマシテハ即チ附帶決議ト致シマシテ、將來我國ノ産業ニ對シテハ出來ルダケ保護スルト云フ其ノ希望條件ガ附イテ居ルノデアリマスガ、之ニ對スル大藏大臣ノ御所見ヲ先ヅ第一ニ伺ヒマス

○井上國務大臣 只今御示シナリマシタヤウニ、世界各國共ニ左様ナ事ガアルコトヲ認メマス、殊ニ世界ノ經濟界ガ急激ニ不景氣ニナリマシテ後ニ左様ナ處置ヲ執ッタ國ハ少イノデアリマスカ、戰爭後ニハ板谷君ノ言ハレルヤウナ態度ヲ皆執ッテ居リマス、唯餘程其點ニ付キマシテハ一概ニ保護政策ヲ執ルト云フコトヲ致シマスレバ、工業其モノカラ言ヒマシタラバ、非常ナ結構ナ話、併ナガラ之ヲ消費スル人ノ側カラ言ヒマシタナラバ、非常ニ高イモノヲ使ハンケレバナラヌ、斯ウ云フコトニナリマスノデ、此關稅引上ニ付テハ生産業者ト消費者トノ間ノ事ヲ常ニ慎重ニ考究スル價值ガアルダウト思ヒマス、ナゼカト申シマス、是マデ保護關稅ニ依ッテ、或ル企業ヲ保護スル、或ハ十年、或ハ十五年、相當ノ年限關稅ニ依ッテ保護スレバ、其事業ガ獨立シテ日本ニ成立ツト云フナラバ、私ハ重要工業デアアルナラバ保護スル價值モアルダウト云フコトハ、自分自身ニ於テハ認メテ居リマス、併ナガラ關稅ヲ保護スル其事其モノガ日本ノ事情カラシテ到底成立タヌモノデアアル、斯ウ云フヤウナコトガ假ニアリマスナラバ、其品物ヲ保護スル場合ニハ、可ナリ慎重ナル態度ヲ考ヘテ置キマセヌト、消費者ノ立場カラ言ヒマシタナラバ、非常ナ事ニナルノデアリマスカラ、一概ニ保護關稅ヲ採ルコトモ、採ラナイコトモ、亦或ル具體的ノ品物ニ付キマシテ關稅ヲ上ゲルコトガ善イ惡イト云フコトモ議論ガアリマスケレドモ、全體ニ涉ッテ

保護關稅ヲ採ルトカ採ラヌトカ云フヤウナ事柄ハ、私ト致シマシテハ過去ノ日本ノ成績カラ考ヘテ見テモ、餘程慎重ナル態度ヲ執ラナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、關稅ニ依ッテ保護シマスコトハ、政府カラ申シマス、收入ヲ圖ル上ニ於テ、一方カラ言ヘバ非常ナ便利ナ一ツノ増稅案デアリマスガ、保護サレル仕事カラ言ヒマス、自分自身ガ非常ナ努力ヲシテ生産費ヲ下ゲ、工夫ヲシテ物ヲ安ク拵ヘ、結局保護關稅ガ必要デナクナルト云フ努力ヲスル程度ガ薄クナリマス、日本ノ關稅ニ於テモ左様ナモノガ數多アルヤウニモ認メマスノデ、其點ニ付テハ非常ナ慎重ナ考慮ヲ要スルコト、考ヘテ居リマス、只今御尋ノ現政府ハ保護關稅ヲ採ルカ否カト云フ抽象的ノ議論ニ對シマシテハ、甚ダ御答ヘ難イ立場ニ居リマス

○板谷委員 私ハ大藏大臣ト別ニ爭フト云フ意味デナイノデアリマシテ、現在實際的ノ上ニ於キマシテ生産費ヲ償ハヌ、勿論需要者側ヲモ考慮シテ成ベク値段ノ適當ニ安イモノヲ供給スルト云フコトガ建前デアリマセウケレドモ、現在非常ニ困ッテ、生産費ヲ償ハナイヤウナ狀態ヲ現ハシテ居ルガ、將來是ハ或ル程度マデ保護スレバ必ズ發達スル、此事柄ニ付テ今御尋ヲシテ居ルノデアリマス、例ヘバ農村ガ今非常ニ

疲弊シテ困ッテ居ル、窮迫ヲ續ケテ居ル、大部分ハ米デアル、米デハアルガ、生産物ハ米バカリデハアリマセヌガ、米ガ生産費ヲ償ハナイヤウナ状態デアルカラ、米穀法ヲ改正シテ之ニ對シテ相當ナ對策ヲ講ジテ居ラルル、デアアルカラ現在ノ農村ヲ救済スル上カラ考ヘテ見マシテモ、例ヘバ煉乳ノ如キハ輸入品ノ壓迫ノ爲ニ困ッテ居ル、内地品ノ發達ヲ阻害シテ居ルト云フ状態デアリマスカラ、將來ニ於ケル關稅政策ガ今御説ノヤウニ保護スベキモノ、或ハ保護スベカラザルモノニ付テハ色々議論モアリマセウガ、現實ノ問題トシテ、非常ニ困ッテ生産費ヲ償ハナイヤウナ状態デアルトシタナラバ、之ニ對スル適當ノ方策ヲ御講ジニナルカ、之ヲ御伺ヒ致シマス

○井上國務大臣 只今例ニ御舉ゲニナリマシタ煉乳品ノ關稅引上ノ如キモ、只今板谷君ノ指示サレルヤウナ状態デアリマス、併ナガラ政府トシテハ斯ウ云フコトヲ考ヘテ居ルノデアリマス、「コンデンスミルク」ト言ヒマス、農林省ガ今日マデ十分調査シタ所ニ依リマス、品質ニ於キマシテ亞米利加カラ來マス「コンデンスミルク」ト全ク違ハナイト言ッテ宜シイ、唯何故ニ「コンデンスミルク」ガ一方ニハ日本製ノモノガ輸出モサレマス半面ニ、外國品

ガ輸入サレルカト云フト、總テノ事情ガ之ニ依ッテ説明シ得ルカ否カハ私モ保證ガ出來マセヌガ、是マデ用ヒテ居ッタ輸入品ノ「コンデンスミルク」ノ方ガ信用ガアル、如何ニ農林省ガ日本ノ物ノ方ガ宜シイト言ッテ口ヲ酸ッバクシテ説明シテモ、大事ナ自分ノ子供ニ飲マセルモノデ、而モ罐詰デアルカラ、自分ガ仔細ニ見ルコトガ出來ヌカラシテ、外國ノモノヲ高クテモ買フ、斯ウ云フヤウナ事情デアリマシテ、此事自體ハ國產獎勵トデモ申シマスカ、自國品ニ對スル信用ガ高マラスケレバ――

「コンデンスミルク」ハ今恐ラク二百萬圓以上日本ニ這入ッテ居リマスガ、之ヲドウシテモ杜絶スルコトガ出來ナイ、斯ウ云フヤウニ申シテ居リマス、私モ左様ニ信用シテ居リマス、煉乳品ノ中デハ、恐ラクハ亞米利加カラ只今多ク參リマスモノヲ除キマシタラ、後ノ金額ハ左程多數ナモノデハゴザイマセヌガ、農林省ハサウ考ヘテ居リマス、サウ云フ事情ガアリマスモノデスカラ、關稅ヲ上ゲテモ果シテ今ノヤウナ目的ガ達セラレルカ否カト云フコトニ付テハ、吾々ハ多大ノ疑ヲ持ッテ居ルノデゴザイマス、餘程前カラ此點ニ付テハ非常ナ努力ヲシテ居リマスガ、歸スル所ハ外國品ノ方ガ信用ガアツテ、大事ナ子供デアルカラ、高クテモヤハリ

外國品ヲ用ヒサセヨウ、斯ウ云フコトニ過ギナイト云フコトデアリマス、私ハ關稅引上ニ依ッテ目的ヲ達スルカドウカ疑ヲ持ッテ居ルモノデアリマスカラ、決シテ等閑ニシテ居ル意味デモアリマセヌ、絶エズ調査ハシテ居ラナケレバナリマセヌガ、今日之ヲ政府案トシテ直ニ私ハ引上ゲヨウ、斯ウハ考ヘテ居ラナカッタノデアリマス

○板谷委員 大藏大臣モ我國ニ於ケル乳製品ノ品質ノ優良ナコトヲ認メテ居ラレルヤウデアリマスシ、又現政府ト致シマシテモ、頻ニ國產獎勵ヲ宣傳サレテ居ルノデアリマスガ、外國ニ於テハ一例ヲ申上ゲルナラバ、亞米利加ノ如キハ加奈陀ノ牛乳ノ輸入ニ對シテ殆ド禁止ノ關稅ヲ課ケテ居ルノデアリマス、牛乳一升ニ對シテ六・五仙ヲ課ケテ居ルヤウナ状態デアリマス、デアリマスカラ、我國ニ於ケル所ノ將來ノ發達スベキ運命ニアル物、或ハ品質ガ相當ニ優良デアツテ、而モ値段ガ今御話ノ如ク、外國品カラ見マスト安イ、デアリマスカラ相當ノ手心ヲ御加ヘ下スツタナラバ、將來發達スベキ運命ガ確ニアルノデアリマス、是ハ何レ農林大臣ガ御出デニナツタナラバ重ネテ質問致シマシテ、更ニ大藏省ニ御交渉ヲ願フコト、シテ、保留シテ置キマスガ、私ハ木材ニ關聯致シテ南洋材ニ付テ御伺致

シタイト思フノデアリマス 先達テ農林大臣ハ本會議ニ於キマシテ、南洋材ハ現在ノ所デハ輸入ガ段々減ッテ居ルノデアルカラ、將來輸入ガ増加ヲシテ内地ノ木材ニ壓迫ヲ加ヘルト云フ事情ガ有ルトシタナラバ考慮スル、斯ウ云フ御答辯デアッタノデアリマス、然ルニ近年私ノ調べマシタ統計ニ依リマス、決シテ減ッテハ居ラナイ、政府ノ御調査ニ依リマシテモ、昭和三年ニ於テハ六百六十四萬三千圓、四年ニ於テハ二百六十萬四千圓、五年ニ於テハ二百三萬圓、成程四年ト五年ト較ベマス、幾ラカ減ッテ居リマスガ、併ナガラ數量ノ上カラ申シマシテモ、政府ノ調ニ依ッテモ、昭和三年度ニ於キマシテハ二十三萬九千石、四年ニ於テハ三十五萬五千石、五年ニ於テハ三十五萬千石ハイッテ居ルヤウナ状態デアリマス、然ルニ年々輸入ガ減少シテ居ルカラシテ、輕微ノモノデアルカラシテ、マダ關稅ヲ課ケル必要ガナイト云フ御答デアリマシタケレドモ、今私ガ統計デ示シマシタ通り、サウデヤナクテ、ヤハリ年々歲々増加スルヤウナ傾向ニナツテ居ルノデアリマス、其爲ニ北海道ニ於ケル關葉樹ハドウ云フ影響ヲ受ケテ居ルカト申シマス、日本全體ニ於ケル關葉樹ハ一箇年ノ需要高ガ約四百萬石デアリマス、其半額ノ二百萬石ト

云フモノハ北海道カラ出テ居ル、然ルニ是ハ段々南洋材ニ壓迫ヲサレマシテ、殆ド昨年ノ如キハ百五十萬石ニ減ッテ居ルヤウナ状態デアリマス、是ハ南洋材ハ言フマデモナク、殆ド原木代ト云フモノガ只同様デアアル、又搬出ニ付キマシテモ、極メテ便利デアアル、此關係ニ於キマシテ割合ニ安ク上ガル、北海道ノ現在ノ闊葉樹ニ於ケル南洋樹ニ適合致シマスモノハ「タモ」或ハ「セン」デアリマスガ、是ガ從來八百圓カラ千圓位ノ價格ヲ維持シテ居ッタモノガ、現在ニ於キマシテハ、南洋材ガ六百圓内外ノ安値デ供給サレマスガ爲ニ、殆ド是ガ壓迫ヲ蒙ッテ、當業者ノ如キハ片端カラ倒レナケレバナラヌヤウナ結果ニナッテ居ル、又生産費ガ幾ラニ付イテ居ルカト申シマス、八百圓、八百圓以下デハ到底引合ハヌ、更ニ又現在此闊葉樹ガ日本全國ニ於テドレダケノ數量ガアルカト申シマス、是ハ非常ナモノデアアル、本土、四國、九州方面ニ掛ケテ十八億五千萬石モアリ、又北海道ニ於テモ十四億六千萬石、朝鮮臺灣七億二千萬石、合計四十億萬石モアルヤウナ譯デ、今御話スルヤウニ一箇年約四百萬石位ノ需要デアルカラ、南洋材ノ輸入ヲ俟タヌデモ我國ニ於キマシテ十分供給シ得ル運命ニ在ルノデアリマス、農林大臣ハ輕微デアッテ何等壓迫ヲ

受ケテ居ラス、將來段々増加スルコトニナッタナラバ考慮スルト云フコトデアリマスガ、今私ガ統計ヲ示シタル通り、相當ナル數量ガ輸入サレテ居リ、將來ニ於テ是ガ爲ニ第一ニ非常ナ打撃ヲ蒙ルノハ北海道デアリマスガ、此關稅ニ對シマシテモ、只今御説明ノ如ク所謂關稅定率ノ均衡ヲ得ル、此方針ニ依ッテ是非トモ御考慮ヲ願ヒタイと思フ、之ニ對スル御意見ハドウデアリマスカ

○井上國務大臣 農林大臣カラ御答ヘ致シマシタヤウニ、輸入量ヲ約ソ三十萬石斯ウ見テ居リマシテ、四年ニハ三十五萬五千石、五年ニハ三十二萬千石、斯ウ云フヤウナ風ニ南洋材ハ減ッテ居リマス、主ニ比律賓カラ來ルモノガ一番多イノデアリマスガ、後ハ爪哇「ボルネオ」デアリマスガ、結論ハ農林大臣ガ申上ゲタヤウニ餘リ殖エモセヌ、數量モ左程多クモナイ、需要ハ家具ニ使フ、斯ウ云フモノデアルカラ、之ニ對シテ別ニ關稅ヲ引上ゲヌデモ宜カラウデヤナイカト云フコトニ歸スルノデアリマスカラ、私カラモ左様御答辯申上ゲテ置キタイと思ヒマス

○板谷委員 只今大藏大臣ノ御説明ニナッタヤウニ、成程昭和四年ト五年ト比較シテ見マス、約三萬石位ハ減ッテ居ル、併シハ御承知ノ通り非常ナ財界

ノ不況ノ爲ニ需要ガ起ラナイカラ減ッテ來タノデアアル、是ハ南洋バカリデハナイノデアリマス、デアリマスカラ此統計ニ依ッテ年々減ッテ行ク傾向デアルト云フ推定ヲナサルコトハ間違ッテ居ルト私ハ思フノデアリマスガ、只今私ガ説明致シマシタ通り、是ガ爲ニ北海道ノ闊葉樹ト云フモノガ非常ナ大ナル打撃ヲ被ッテ居ル、此度ノ沿海州ノ木材ニ對スル關稅改正ニ依リマシテ相當ノ效果ガアリマスカラ、針葉樹方面ニ對シテハ相當ナ施設經營デアルト私ハ信ズル者デアリマスケレドモ、此南洋材ニ對シテハ今一逼一ツ御考慮ヲ願ヒタイと思フ、是ハ私質問デハアリマセヌ、政府ノ御調査ガ吾々ノ調べテ居ル所ト大ナル相違ガアル、現ニ非常ナル打撃ヲ受ケテ居ル、八百圓以下デハ引合フモノデアリマセヌ、此點ヲ今一應一ツ御考慮ヲ願ヒタイ

○岩本委員 板谷君ノ質問ニ關聯致シマシテ大藏大臣ニ御尋ヲ致シタイ、今回政府ノ提出ニナリマシタ人絹及木材ニ關スル關稅定率ノ改正ハ、申スマデモナク此關稅定率表ナルモノハ各種ノモノニ互ッテ定メラレテアルノデアリマスガ、政府ハ關稅定率全部ノモノヲ見テサウシテ其上デ此二ツノモノガ均衡ガ取レナイト云フ意味デ御提出ニナッタノデアアルカ、或ハ木材ノ定率表ノ

中ダケデ、均衡ガ取レナイト云フ意味、若クハ人絹ナラバ人絹ダケノ中デ、斯ウシナケレバナラヌ、斯ウ云フヤウナ風ニ所謂區々ニ御考ヘニナッテ御提出ニナッタノデアリマスガ、定率表全體ノ上カラ御考ヘニナッテ御提出ニナッタノデアリマスガ、此點ヲ御伺ヒ致シタイ

○井上國務大臣 政府ト致シマシテハ、只今種々御話ノアリマス如ク、關稅ト云フモノハ世界ノ大勢、日本ノ事情ニ依ッテ常ニ變ルノデアリマスカラ、實ハ絶エズ研究ハ致シテ居ル、又致サネバナラヌノデアリマスガ、此處ニ提案シテアリマス木材關稅ト人絹ノ關稅ハ、全體ノ事情ヲ見テ考ヘタ譯デアリマセヌ、ソレハ木材ダケノ中デ是マデ特ニ低クシテアッタガ、ソレガ具合ガ惡イカラ之ヲ元ニ戻サウ、木材ハ斯ウ云フ考デアリマス

ソレカラ人絹ノ方ハ御承知ノ如ク、人絹ノ非常ニ安カッタ場合ニ、從量稅トシテ百斤百二十五圓ト云フヤウナ高イ稅ガ掛ッテ居リマスガ、只今私ガ説明シマス如ク、是ハ輸出織物ニ多ク用フルモノデアアルカラ、大勢カラ申シマスルト、關稅ヲ段々低クシテ行ッテ、サウシテ内地ノ人絹ノ生産費ガ安クナッテ、織物ガ安ク出來ルヤウニナル、斯ウ云フコトノ大勢上、之ヲ相當ノ程度ニ於テ下ゲ

テ置カナケレバナラヌト云フコトカラ
來マシタノデ、全體ノ關稅ノコトハ過
日モ申上ゲマシタ如ク、稅制ノ整理ヲ
昭和六年度ニ致シマス時ニハ、關稅モ
全部一遍之ヲ今日ノ經濟界ノ立場カラ
研究シテ見ル積リデ居リマス、只今板
谷君ノ御注意モアリマシタノデスガ、
吾々モ全部ニ對シテ現在デモソレガ變
ルニ從ツテ常ニ研究シテ居リマスガ、今
般ハ世界各國ノ狀態、内外ノ物價ノ下
タ事情ヲ以テ全部研究シテ見 ヨウト
思ッテ居ル次第デアリマス

○岩本委員 先刻大藏大臣ノ提出ノ御
說明ニ依リマス、今回ノ木材關稅定率
改正案ハ五十六議會當時希望條件ガ附
イタ、一面此希望條件ヲ認メテ御提出
ニナッタト云フコトデアリマシタガ、然
ラバ大藏大臣ハ即チ五十六議會ニ於ケ
ル希望條件ヲ御認メニナルカ、即チ院
議ヲ御尊重ニナッテ御提出ニナッタノデ
アリマス

○井上國務大臣 只今私が説明申シマ
シタコトハ、其點ニ於テハ左様デハゴ
ザイマセヌ、只今申シマス如ク、私ハ
今ノ木材ト人造絹絲ヲ玆ニ提案致シマ
シテ、其以外ニ付テハ常ニ研究シテ居
ルノデアリマス、更ニ議會ノ希望條件
ニ付キマシテハ、委員長カラ注意ガア
リマシテ、御答致シタヤウナ次第デア
リマスガ、其希望條件ニ付キマシテノ

考ハ、常ニ主稅局ノ關稅課ニ於キマシ
テ、所謂研究シテ居ル、頭ニハ希望條
件ノコトハ勿論這入ッテ居ル次第デア
リマス、併ナガラ此處ニ提案致シテア
ル二ツノ事項ニ付キマシテハ、一方ハ
下ゲルノデアリマスガ、一方ハ上ゲル
ノデアリマス、上ゲルノハ過去ニ於テ
特別ニ安クシテ居ッタノガ、其事情ガ
ナクナッタカラ、ソレヲ今度ハ元ニ戻
スト云フノデアリマスカラ、左様御承
知ヲ願ヒマス

○永田委員長 今ノ大藏大臣ノ御說明
ハ一寸違ッテ居ルヤウデアリマス、岩
本君ノ御尋ニナッタノハ五十六議會デ
木材關稅ニ對シテ希望條件ガ附イテ
居ッタガ、ソレヲ容レタト云フ御說明
ガ前ニアッタ、隨テソレハ政府ノ調査
モサウナッタアッタノデアラウガ、院議
ヲ尊重スルト云フ意味ヲ含ンデ居ルモ
ノト思ハレルガドウカ、斯ウ云フ意味
ノヤウニ思ヒマス、大藏大臣ハ一寸御
聽取違ヒノヤウデアリマス

○井上國務大臣 第五十六議會ノ木材
關稅ニ付テノ希望條件ハ、先刻私ノ説
明致シマシタ如ク、其點ハ必要ガナイ、
其希望條件ニ付テ研究シテ見マスト變
ヘル必要ガナイ、斯ウ云フコトノ結論
ニナッタノデアリマス、サウ云フコトニ
御承知ヲ願ッテ置キマス、第五十六議會
ノ附帶決議ハ斯ウデアリマス、木材ニ

關スル改正案ハ細目ノ點ニ於テ均衡ヲ
失スルモノガアルカラ政府ハ速カニ調
査ヲ遂ゲ、是ガ改正案ヲ次ノ通常議會
ニ提出スベシト云フ希望條件ガアリマ
スガ、ソレヲ研究致シマシタ結果ガ、
本議會ニハ改正案ヲ提出スル必要ガナ
イト認メタノデアリマス、ソレデアリ
マスカラ先刻委員長カラノ御質問ニ
對シテ、私が其點ハ聽誤リマシタノデ
スガ、何故ニ其希望條件ヲ研究シタ結
果改正案ヲ提出スル必要ガナイカハ、
改正案ヲ提出スル必要ガナイカハ、
御說明申上ゲマス、斯ウ申上ゲテ言
掛ッテ居ッタノデアリマスガ、只今政府
委員カラ改正後ニ於キマシテドウ云フ
風ニ輸入ノ狀況ガナッテ居ルカラ一遍
說明致サセマス

○岩本委員 今政府當局カラ輸入ノ狀
況ヲ御說明ニナルト云フ御話デアリマ
スガ、先刻大藏カラノ御說明ニ依ルト
既ニ明瞭ニナッテ居リマス、一寸玆デ
斷ッテ置キマスガ、是カラ質問致ス場合
ニ、「キ」ト云フ音ノモノガ二ツアリマ
スカラ、私ハ葵ノ「キ」ト云フノハ「キ」
ト讀ンデ、コチヲノ己ノ方ハ「ミ」ト讀
ミタイト思フノデアリマス、サウセヌ
ト速記ニ間違ヒガ生ジマスカラ……昭
和四年改正後ハ輸入ガ減ッテ居ルガ、已
ノ四ニ限ッテ輸入ガ殖エテ居ルカラ、之
ニ關稅ノ改正ヲ加ヘタ、即チ今マデ稅

金ヲ掛ケテ居ッタモノニ對シテハ之ヲ
引上ゲ、無稅デアッタモノハ有稅ニシ
タ、斯様ナ御說明デアリマスガ、然ラ
バ私ハ御同致シタイ、單ニ輸入ガ殖エ
タカラ之ニ稅金ヲ課シ、殖エナイカラ
其儘デ宜シイト云フノデアルガ、其根
據ヲ御同致シマス

○勝政府委員 一應私カラ申上ゲテ置
キマシテ、尙ホ不十分ノ點ハ後カラ御
質問ヲ願ヒマス、此附帶決議ノ事デア
リマスガ、其主ナル點ハ「レッドシダ
ー」ト「ヘムロック」ノコトデアリマス、
一ツハ此「レッドシダー」ト「ヘムロッ
ク」ト云フモノハ分ケテ稅ヲ取ラナケレバ
イケナイト云フ議論デアッタ、第二ノ點
ハ、丸太ト割材トノ關稅ガ權衡ヲ失シ
テ居ルデハナイカ、要約スレバ斯ウ云
フ議論デアリマシタガ、是ハ太田君ガ
頻リニ論ジテ居ラレマシタガ、吾々モ
ソレヲ聽イテ居ッテ洵ニ尤モト思ッテ居
リマシタ、段々其後ノ實況ヲ調べテ見
マスト若シ是ガ非常ニ關稅ノ課ケ方ガ
不合理デアルナラバ安イモノガ餘計入
ル、高イモノガ抑制セラレルト云フ結
果ヲ示サナケレバナラナイノニ拘ラ
ズ、其後二年間バカリノ經過ニ依リマ
スト「レッドシダー」モ「ヘムロック」モ殆
ド同ジャウナ割合デ減ッテ居リマス、將
來丸太ト割材ノ方モ——成程是ハ割材
ハ高イカラ、割材ノ方ガ餘計入ルカト

思へば、事實ニ於テ餘計入ルト云フヤウナコトハナイ、同ジヤウナ割合デ減ッテ行クコトデアリマスカラ、此儘デ行ッテモ別段ニ不都合ガ起ラナイデヤナイカ、ソレナラバ此際改正スル必要ハナイデヤナイカ、ト云フ事情ニナッテ居ルノデアリマス

○岩本委員 私ノ主要ナル質問ノ御答辯ヲ願ヒマス、即チ輸入ノ減ッタモノガ多クナッタカラ之ニ税金ヲ課ス、此理由ヲ御説明ヲ願ヒマス

○平熊政府委員 今大藏省ノ政府委員カラ御答ニナリマシタ通り、米杉ト米梅トノ關係ハサウ云ウ工合ニ減ッテ居リマス、詰リ此減ッタ關係ヲ言ヒマス、關稅ニ依ッテ輸入ヲ抑制シヨウト云フ目的ハ大體ニ於テ達シテ居ルモノト推察致シマス、サウ云フ意味ニ於キマシテ、附帶決議ノ目的ハ事實ニ於テ達セラレタノデアアル、ソレ故ニ此際變更ヲ加ヘナカッタノデアアル、斯ウ云フ風ニ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス

○岩本委員 然ラバ御伺致シマスガソレモ一理由デアリマセウガ、併シ此外材ニ對シテ税金ヲ課スル、或ハ課セナイト云フコトハ、一面内地ニ於ケル林業ノ關係ヲモ考慮シナケレバナラヌコトハ勿論デアリマスケレドモ、又他ノ一面ニ於テハ内地ノ經濟事情、即チ内地ノ消費力、此事ヲ強ク考慮シナ

ケレバナラヌト思フ、何故ニ沿海洲物ガ殖エテ、サウシテ何故ニ米材ガ減ッタカ、是ハ私ノ見ル所ニ依リマス、單ニ關稅ガアルカラ減ッタノデハナクシテ、主ナル事情ハ内地ノ需要力ガ減退致シタ、此事ニ大キナ原因ヲ持ッテ居ルト思フノデアリマス、是ハ私カラ申上ゲルマデモナク、己ノ四ニ屬スル所ノ殆ドハ所謂箱材ニモ使ヒマスガ、其大キナ需要ハ「バルブ」ニアルト考ヘテ居リマス、斯様ナ意味カラ考ヘテ見マシテモ、目下内地ノ經濟事情、消費力、此事ヲ非常ニ考慮シナケレバ、單ニ一方ガ膨レテ一方ガ減ッタカラ、膨レタモノニ課スルト云フコトハ、是ハ輕率ノ譏ヲ免レナイト思ヒマスガ、當局ハ内地ノ消費ノ關係ニ付テドウ云フヤウナ御調査ヲ爲シ、又ドウ云フ風ニ御考ヘニナッテ居リマス、此點ヲ御伺致シタイ

○平熊政府委員 己ノ四ガ殖エテ己ノ三ガ減ッテ居ル、此狀態ハ私ハ岩本サンノ仰シヤルヤウナ意味デヤナクテ、違ッタ意味ニ於テ原因ヲ持ッテ居ルノデアラウト思ヒマス、需要ガ減退シテ居ルガ爲ニ己ノ三ガ減ッテ居ルト云フナラバ、己ノ四モヤハリ減ラナケレバナラヌ、然ルニ實際ハ反對ノ狀況ヲ現シテ居ル、サウシテ此ノ己ノ三ノ減リ方ハ私共ノ觀察ト致シマシテハ、木材ニ對スル一般ノ需要ノ減退以上ニ減ッテ居ルヤウニ觀察シテ居ルノデアリマス、己ノ四ガ殖エテ居ルノハヤハリ其當時ハ之ヲ無稅若クハ低稅ニスベキ相當ノ理由ガアッタカラ、サウナッテ居ルト思ヒマス、其事情ガ今日ニ於テハ消滅シテ居ルニ拘ラズ、ヤハリ無稅若クハ低稅デ居ルガ爲ニ、非常ニ不合理ナ恩惠ヲ受ケテ居ル爲ニ入ッテ來テ居ルト思ヒマスカラ、二ツヲ同一ニ論ズルトハ私ハ出來ナイト思ヒマス

○岩本委員 ソレハ成程一應御尤モノヤウニハ聞エマスガ、單ニ己ノ四ノミガ殖エタト申シマスコトハ——本來ナラバ内地ノ消費力ガ減退致シテ居ルノデアリマスカラ、全體ニ於テ減ラナケレバナラヌ、然ルニ己ノ四ノミガ殖エタト云フ此事情ハ、己ノ四ニ屬スル木材ノ用途ガ比較的他ノモノヨリモ消費サレル量ニ於テ、即チ不景氣ノ影響ヲ被ル程度ガ薄イ、此點ヲ御考ヘニナッタカドウカ、又此點ヲ御研究ニナッテ居ルカドウカ、モウ一ツハ昭和四年度、五年度ニ於キマシテ、樺太材ノ内地ニ移出サレタ量ノ關係、是モ數字ニ依ッテ御研究ニナッタカ、此點ヲ御伺致シマス

○平熊政府委員 樺太材ガ内地ニ入りマシタ數字ハ調べテ居リマスガ、此己ノ四ガ殖エテ來タノハ、不景氣ノ關係ヲ考ヘテ觀察ヲ下シテ居ルカドウカト云フ御尋デアリマスガ、私ハ景氣不景氣ノ關係ハ總テ共通デアルガ、唯己ノ四ニ付テハ、特ニ他ノ材ト違ッタ理由ヲ消滅シタニ拘ラズ、尙ホ恩惠ヲ受ケテ居ルト云フコトガ特殊ノ理由デアルガ爲ニ、他ノ材ト違ッタ現象ヲ現シテ居ルデアラウト私ハ思ヒマス

○岩本委員 私ハ此問題ハ此程度ニ留保シテ置キマス、大藏大臣ニ御尋致シマスガ……

○永田委員長 岡田サン、先程御要求ノ立石貿易局長ガ見エマシタカラ……

○岡田委員 私ハ人絹ノ材料ヲ要求致シタイト思ヒマス、是ハ大藏省ノ關係モアリマセウ、商工省ノ關係モアリマセウ、ドチラナリト御主管ノ方ニ御願ヒ致シマス、要領ハ人絹ハ申スマデモナク、日本ニ於テ一番有望ナ生産品デアリマス、又貿易品デアリマスカラ、此際突然之ヲ下ゲルト云フコトニ付テ御伺ヒ致シタイ、仍テ尙ホ詳シイ材料ヲ頂戴致シタイト思ヒマス、先ヅ材料ノミヲ要求シテ置キマス、尤モ今頂戴致シマシタ主計局、主稅局ノ材料ト重複スル點モアルト思ヒマスガ、其點ハ無論省略シテ宜イト思ヒマス、控ヘガアリマセヌカラ書イテ戴キタイ、本邦人絹ノ生産高、同上内地向織物使用量、並ニ外國向織物使用量ト分ケテ御願ヒ致シマス、ソレカラ内地向ニ使用スル

所ノ價格、外國向織物ノ價格モ同時ニ御伺ヒシタイノデアリマス、本邦人絹織物輸出高、竝ニ仕向地別、地ト申シマスノハ國デモ宜シウゴザイマス、ドウ云フ國、ドウ云フ地ニ出スカ、次ニ一ツ主要各國人絹原絲ノ生産高、世界ノ人絹原絲生産高ヲ國別ニ知リタイノデアリマス、ソレカラ主要各國人絹原絲輸出高、同上各仕向地別、ソレカラ主要各國人絹ニ關スル關稅率、ソレカラ主要各國人絹ノ各自國內ニ於ケル販賣價格、一、主要各國人絹ノ外國市場(主要市場別)、細カイコトハ宜シウゴザイマス、ソレカラ、同上外國市場ニ於ケル販賣價格、以上ハ既往五箇年間デ宜シウゴザイマス、一、我國人絹保稅工場ノ所在地、工場名、認可年月日、一、外國人絹原絲使用高、ソレカラ、ソレヲ各國別ニ、各國ノ人絹ガドウナツテ居ルカ、伊太利ダケデアルカ、他ノ物モ這入ッテ居ルカ、其取引値段、ソコデ私ガ今申上ゲル最後ノ項目ノ各國ノ人絹原絲使用高、各國人絹ノ輸入國別、取引値段、此最後ノ三項ニ付テハ各保稅工場ガ設立以後ノ各年別デ宜シウゴザイマスケレドモ、是ダケヲ成ベク至急ニ御提出ヲ願ヒマス、尙ホ序ニ或ハ今日御説明ガアツタカモ知レマセヌガ、私ノ聽キタイノハ、此木材關稅値上ノ爲ニ輸入數量ノ増減ノ見込、隨テ關稅

收入ノ増減ノ見込、人絹關稅値下ノ爲ノ同上、是ダケヲ書類ニシテ伺ヒタイノデアリマス

○立石政府委員 大體御要求ノモノハ取敢ヘズ出來ヨウト思ヒマスガ、主要各國ノ内地ニ於ケル販賣價格及ビ各外國ニ於ケル販賣價格表ハ五ヶ年ニ涉ッテ急速ニ値段ハ纏リマスマイト考ヘテ居リマス、少シ暇取リハシナイカト思ヒマス、其外ノモノハ大體御要求ニ應ジテ出來ヨウカト思ヒマス

○岡田委員 是ハ私ハ實ニ驚クノデアリマスガ、此重要品ニ對スル關稅ヲ定メルノニハ當然御調査ガナケレバナラヌト思ヒマス、故ニ私ハ必ず是ハ要求致シマス、無ケレバ何卒至急ニ調査ヲ願ヒタイト思ヒマス

○立石政府委員 出來ルダケ早く纏メマス

○岩本委員 大藏大臣ニ御伺ヒ致シマス、今回ノ木材關稅改正案ハ追加豫算ニ現レテ居ルノデアリマスルガ、追加豫算ニ御提出ニナリマシタ事情ヲ承リタイ

○井上國務大臣 追加豫算ニ致シマシタ事情ハ斯ウ云フ法律案ノ——御承知ノ如ク追加豫算ダケデアリマセヌノデ、一種ノ法律案ノ改正ニナリマスノデ、ソレニ伴ッテ改正案ガ出テ來タ次第デアリマスルガ、又一方カラ申シマスル

ト關稅改正ノ如キハ可ナリ研究モ致シマス爲ニ、本豫算ノ成リマス時ニ此關稅改正ノ結果ヲ數字ニ入レルコトニハ至ラナカッタノデアリマス、ソレダケノ事情デアリマス

○岩本委員 ソレデハ定率改正ニ依リマシテ收入ノ金ノ使途ヲ御伺ヒ致シマス

○井上國務大臣 是ノ使途ハ此金デ何處ニドウト云フ意味モゴザイマセヌ、併ナガラ昭和六年度ニ於キマシテ、千萬圓バカリノ歲入超過ノ金ヲ使ッテシマヒマシテ、サウシテ此木材關稅ノ値上ノ金ガ其處ニ加リマスカラ、ソレニ依ッテ使ヒマスモノニハ總テノモノニ是ガ行涉ルコトニナリマス、併ナガラ順序カラ申シマスルト其後ニ金ヲ使用スルモノハ追加豫算ヲ出シマシタ時ニハナイノデアリマスカラ、金額ハ十萬圓程度ニ於テ使ヒマスケレドモ、此金ヲ目ノ子算用デ行キマスレバ救護法ノ不足ノ分ニモ多少當嵌ルコトニナリマス

○岩本委員 此問題ハ今豫算表ヲ持參致シテ居リマセヌカラ留保致シテ置キマス

○板谷委員 私モ材料ノ提出ヲ要求致シマス、南洋材ハ段々輸入ハ減ジテ居ルト云フ農林大臣ノ御答辯デアリマスガ、私ノ方デハ材料ガアリマスケレド

モ、參考ノ爲ニ必要ト思フノデアリマスカラ、我國ノ最近三ヶ年ニ於ケル潤葉樹ノ使用高、ソレカラ南洋方面カラ這入ッテ來マス三ヶ年ノ輸入高、之ヲ一ツ御調べノ上御出シヲ願ヒタイ

○岩本委員 私モ參考材料ヲ要求致シマス、政府カラ廻ッテ居リマス木材ニ關スル參考書ノ中己ノ四ノ數量、價格ハ分ッテ居リマスガ、此内譯、即チ昭和四年度ト五年度デ宜シウゴザイマスルカラ、己ノ四ノ全體ノ中ノ「ノーブルフアー」ガ幾ラ含マレテ居ルカ、之ヲ御出シヲ願ヒタイ

○多木委員 農林大臣ガ私ノ本會議ノ質問ニ對シテ、委員會ニ於テ詳細ナル説明ヲスルト云フコトデアリマシタガ、何時農林大臣ハ來ラレマスカ

○勝政府委員 多木サンニ一寸申上ゲマスガ、皆様ノ御集リニナル前ニ農林大臣ニ是非出テ貰ヒタイト云フ交渉ヲ委員會カラ致シマシタガ、今日ハ米穀委員會ノ方デドウシテモ手が放セナイ、他ノ機會ニ讓ッテ吳レト云フコトデアリマシタノデ、ソレデ今日ハ多分ムツカシイト思ッテ居リマス

○末松委員 私ハ實ハ保稅工場法中改正法律案ヲ提出致シテ居リマス關係上、此問題ニ付テノ質問ヲ致シタイト思ヒマスルガ、其前提ト致シマシテ今回ノ關稅ノ引下ガ天然絹絲ノ脅威ニハ

ナラナイカ、又伊太利ノ人造絹絲ノ「ダンピング」ヲ一層誘發スル原因ニハナラナイカト云フ點ヲ先ヅ前提トシテ伺ヒタイ、實ハ私ハ滋賀縣ヤ廣島縣ニ在職シタ關係上、人造絹絲ノ發達ニ關シテ初カラ色々ノ點ニ付テ意見ヲ持ッテ居リマス、此意見ハ地方官會議ニ於テ私ハ常々農林當局若クハ生絲當局ト意見ヲ異ニシテ居ルノデアリマス、要スルニ人造絹絲ガ天然絹絲ヲ非常ニ脅威スル、隨テ天然絹絲ノ價格ガ益々下ル、日本ノ輸出貿易ハ人造絹絲ノ脅威ニ依ッテ非常ナ打撃ヲ受ケルト云フ論旨デアアル、此論旨ニ付テハマダ今日マデヤハリ政府當局モ當業者モ非常ニ樂觀シテ居リマス、此點ハ議論ニナリマスカラ私ハ餘リ詳シクハ申上ゲマセヌケレドモ、先日ノ本法ノ本會議ニ於テモ農林大臣ハ決シテ大シタ脅威デナイ、隨テ生産費ヲ安クシテヤレバ宜イト云フ御意見デアリマシタ、此意見ハ恐ラクハ終始一貫シテ、十數年前カラ政府當局ナドハ斯ウ云フ意見ヲ持タレテ居リマスケレドモ、吾々ハ此人造絹絲ノ發達シタ歴史、又私ハ所謂化學的工業ノ内容ニ關シテハ地方官デアッタ關係上、人造絹絲ノ製造ニ關シテ幾ラカ研究シテ見マシタガ、技術的進歩ト共ニ價格ノ常非ナル低減ニ依ッテ天然絹絲ガ非常ナル脅威ヲ受ケルト云フ論者デア

ル、而シテ之ニ付テハ色々議論ハアリマセウガ、私ハ少クモ農林當局ガ將來蠶絲業ヲ獎勵スル、或ハ桑園ヲ改良シ或ハ發展サセルト云フヤウナ政策ハ非常ニ考ヘナケレバナラヌ政策デアルト信ズルト同時ニ、輸出貿易ノ減退ヲ何ニ依ッテ補充スルカト云フ點ニ付テハ、大藏大臣トシテハ餘程御考ヘニナルベキ點ト考ヘルノデアリマス、而シテ此天然絹絲ガ少クモ價格ニ於テ今日非常ニ下落シテ居ル、此下落ハ中々私ハ恢復シナイト思フ、マダ政府當局、當業者ハ生産費ヲ安クシヨウト云フノデアリマスケレドモ、如何ニ生産費ヲ安クシヨウト云ツテモ、今日ノ養蠶ノ方法ヲ根本的ニ非常ナ科學的ノ作用カ何カニ依ッテデモヤラナケレバ、今ノ養蠶ノ方法ニ依ッテ此生産費ガ安クナリヤウガナイノデアリマスカラ、隨テ吾々ノ見ル所ニ依レバ、何トカシテ此人造絹絲ノ脅威ニ對シテハ他ノ方法ヲ講ジナケレバナラヌ、我國ノ産業上非常ナ大打撃デアルト云フ意見ヲ私ハ持ッテ居リマス、此意見ニ基イテ、最近ニ於ケル人造絹絲ノ發達ヲ見マスレバ、御承知ノ如ク昭和二年頃ニハ百八十何萬圓ト云フ輸出額デアッタモノガ、昭和五年即チ昨年ニ於テハ三千五百萬圓ニモナツテ居ル、是ハ我國ノ輸出貿易ノ上ニ於テ非常ニ耳寄りノ話デ、洵ニ此點

ニ付テ大ニ國民トシテ考ヘベキモノデアルト云フコトヲ信ジテ居リマス、勿論此天然絹絲ノ脅威ト云フコトハ、世界的ニ非常ニ發達シテ來ル人造絹絲デアリマスカラ、是ハ何トカシテ之ヲ救済シナケレバナラヌノデアアルケレドモ、併ナガラ人造絹絲其ノモノハ世界各國ノ脅威ト共ニ、生産市場ニ輸出シ或ハ販賣シテ居ルモノデアツテ、即チ世界的ニ我ガ人造絹絲ヲドウ云フ風ニ伸展サセルカト云フコトガ、我國ノ所謂工業政策トシテ非常ニ考ヘベキモノデアルト信ズルノデアリマス、斯ノ如ク我國ノ人造絹絲ガ非常ニ發展シテ來ツツアル以上ハ、即チ三千五百萬圓ト云フト今日ニ於テハ輸出貿易額カラ見マスレバ四番目ノ輸出品ニナツテ居ル、斯ウ云フ工業ガ新ニ興ッタト云フコトハ、我國ニ於テ非常ニ欣ブベキ事デナケレバナラヌ、其點ニ於テ是ハ第二ノ人造絹絲ト云フ一ツノ新工業ヲ國策ヲ以テ相當保護シテ、之ニ依ッテ海外貿易關係ニ於ケル缺陷ヲ幾ラカ補充シテ行クト云フコトハ、是ハ國民トシ又政府トシテ非常ニ考究スベキモノデアルト云フ考ヲ持ッテ居ルノデアリマス、然ルニ今同人造絹絲ニ關スル關稅ヲ御定メニナツタノデアリマスカ、是ハ勿論以前ニ非常ニ價格ノ高カッタ際ノ制定デアツテ、或ハ斯ウ云フ程度ガ宜イカモ知レ

マセヌケレドモ、是ガ即チ一方ニ於テハ伊太利ノ「ダンピング」ヲ一層誘發スルコトデナイカ、聞ク所ニ依リマス、伊太利ニ於テノ價格ハ邦價ニ換算シテ百二十圓カラ百二十五圓ト云フ話デアリマスカ、我國ニ賣ラレテ居ルノハ七十五圓内外デ現ニ「ダンピング」ヲヤツテ居ル、然ルニ更ニ關稅ヲ引下ゲルト此「ダンピング」ヲ誘發スルコトニナリハシナイカ、又「ダンピング」ヲ誘發シテ一層人造絹絲ノ業者ヲ非常ニ脅威スル、ノミナラズ天然絹絲ノ脅威論カラ申セバ我國ニ輸入サレテ居ル絲ハ勿論精巧ナル、又價格ノ高イ人造絹絲デアリマスカラ、私ハ是ガ内地ニ於ケル天然絹絲ヲ原料トスル織物ニ對シテ非常ナ脅威ヲ與ヘルモノデナイカト云フコトヲ信ジマス、サウ云フ點ニ付テ此四割ト云フヤウナ非常ナ關稅ノ遞減ト云フモノハ伊太利ノ「ダンピング」ヲ誘發シ、又同時ニ生絲ガ今マデ占領シテ居ッタ織物原料タル所ノ天然絹絲ヲ一層脅威シ、我國ノ農業政策上考ヘネバナラヌ所ノ生絲ニ影響ヲ及ボスコトガアリハシナイカト云フコトヲ虞レテ居リマスカ故ニ、之ニ對スル大藏大臣ノ御意見ヲ先ヅ承ッテ見タイト思フノデアリマス

○井上國務大臣 只今末松君ノ御心配ノ點ハ頗ル御同感デアリマス、隨テ日本

ノ天然絹絲ノ立場カラ云ヒマスレバ非常ナ困難ナ問題デアリマスガ、併シ是マデノ世界デ斯ノ道ノ人ノ認メテ居リマス殆ド一定シタ議論ハ、人造絹絲ニ依ッテ却テ天然絹絲ノ需要ハ増スノデアル、但シ過去ノ歴史ニ依リマスト天然絹絲ノ値段ガ非常ニ高カッタ時ハ、人造絹絲ノ最モ生産量ノ殖エタ時デアルト云フ歴史ガアリマスガ、天然絹絲ガ生産費ヲ成ダケ安クシテ置キサヘスレバ、消費量ガ減ル氣遣ヒハナイ、斯ウ云フコトガ世界ノ其道ノ人ノ凡ソ定ッテ居ル議論デアリマシテ、又事實左様デアルヤウニ思フノデアリマス、隨テ日本ノ天然絹絲ヲ過去ノ如ク或ハ四千圓トカ三千圓トカ云フヤウナ値段ニ賣ラウト思ッテ居ッタナラバ、或ハ又過去ノ歴史ノ如ク年々非常ナ消費量ガ殖エルト云フコトヲ考ヘテ居ッタナラバ、ソレハ大變ナ間違ヒデアル、併ナガラ生産費ヲ安クシテ天然絹絲ヲ拵ヘテ置キサヘスレバ、相當ナ増加率ハ確ニ認メラレル、斯ウ云フコトヲ申シテ居リマス、又吾等モソレヲ信ジテ居リマス、又事實過去數年間ノ狀態ハ左様ニ進ンデ居ルヤウニ思フノデアリマス、偕テ左様ニ考ヘテ見マス、一面末松君ノ御心配ノヤウナ事情ガアルカモ知レス、最近ハ英吉利等ニ於キマシテハ天然絹絲ト全ク違ハナイヤウナ、是マデノ人造絹絲

ト全ク性質ノ違ッタモノサヘ最近ニハ出來ルト云フノデアリマスガ、若シ左様ナコトガアッタナラバ、實際天然絹絲ノ大ニ脅威ヲ感ズルヤウナコトガアルカモ知レマセヌ、併シアッタトシテモ、私ハ人造絹絲ヲ今日ノ如ク關稅ヲ多少下ゲテ行ク、斯ウ云フコトハ内地ノ立場カラ見マシテモ、外國品ガ輸入サレル立場カラ言ヒマシテモ、已ムヲ得ナイ事情ト考ヘルノデアリマス、ソレナラバ内地ノ人造絹絲ヲ非常ニ高クサヘシテ置ケバ、或ハ關稅デ之ヲ防イデ置イタラ、成程内地ノ輸入量ハソレニ依ッテ減リ、又内地ノ天然絹絲ノ使用量ハソレニ依ッテ減ジナイ、斯ウ云フコトハアリマセウ、併ナガラ大部分ノ天然絹絲ハ外國ニ出テ行ッテ、外國ノ人造絹絲ト競争スルノデアリマスカラ、日本ダケガ關稅ヲ高クシテ置イテ、人造絹絲ヲ高クシテ、天然絹絲ノ範圍ヲ侵サナイヤウニシタ所デ、輸出ヲセスケレバ日本ノ天然絹絲ハ立行カヌ品物デアリマスカラ、是ハ已ムヲ得ナイコト、考ヘテ居リマス、ソレナラバ今度四割下ゲテ、人造絹絲ガ大イニ脅威ヲ感ジハセヌカト云フ御話デアリマスガ、吾々ハサウ考ヘマセヌ、今日ノ日本ノ人造絹絲ノ生産費ヲ抑ヘマシテ、ソレト伊太利ノ人造絹絲ノ日本ニ陸揚サレテ販賣サレル價格ヲ標準ニ置キマシテ見タ

ナラバ、相當之ニ依ッテ防ゲル、末松君ノ御心配サレル如ク、七十五圓ト抑ヘタ伊太利ノ人造絹絲ガ「ダンピング」ニ依ッテ此上何十圓モ下ルコトガアッタナラバ、ソレハ脅威ヲ感ゼヌトハ限リマセヌ、併シ其時ハ今日カラ申シマシタラバ、ドウシテモ日本ノ關稅法ニ用意ノシテアリマス「ダンピング」ノ簡條ニ依ッテ之ヲ保護スルヨリ外私ハ途ハナイト考ヘテ居ルノデス、人造絹絲ノ生産費ト、伊太利ノ今日ノ物ト比較シテ、ソレカラ適當ナル關稅率ヲ割出シテ置キマスレバ、ソレニ據ッテ宜カラウ、ソレカラ非常ナ、切詰メテ置キマシタラバ伊太利ノ絲ガ此後三圓五圓下ッタナラバ、モウ既ニ困ルデヤナイカ、斯ウ言ハレマスケレドモ、幾ラカ其處ニハ裕リモ見テアルノデアリマスカラ、四割ノ關稅ヲ下ゲテモ、私ハ人造絹絲ニハ何等脅威ヲ感ゼヌト信ジテ居ル次第デアリマス

○末松委員 尙ホ岡田君御註文ノ材料ガ參リマシタナラバ、材料ニ付テ尙ホ御質問致シタイト思ヒマスガ、只今ノ點モ、結局我國ノ人造絹絲ノ價格カラ言ッテモ、對外的ニ外ノ國ニ對シテ餘リニ高クナイシ、又關稅其モノモ、日本ノ關稅ハ決シテ外國ニ對シテ高クナイト云フコトヲ承ッテ居リマス、サウ云フ點ハ尙ホ材料ヲ得テ更ニ質問致シマスガ、ソレニ付テ私前提致シマシタ如ク、吾々保稅工場法改正法律案ヲ議會ニ提出シテ居リマス、此主ナル目的ハ結局人絹デアリマシテ、先刻御話スルヤウニ、吾々ハ人造絹絲ト云フモノヲ國策上相當保護獎勵シテ輸出貿易額ノ減退ヲ補充シタイト云フ希望ヲ有ッテ居ルノデアリマスカラ、此保稅工場法ノ適用ニ付テ、人絹ニ付テハ之ヲ除外スルト云フ必要ヲ認メルト云フノガ案ノ骨子デアリマス、詳シイコトハ他ノ機會ニ申上ゲルコト、致シマスガ、要スルニ今日ノ保稅工場法ナルモノハ、假置場法ノ變形デアッテ、其制定ノ當時ニ於テノ目的ハ、我國ノ原料ノナイ品物ニ相當ノ加工ヲシテ、外國ニ出シテ利益ヲ得ヨウト云フ根本ノ趣旨デアルコトハ、法律制定當時政府委員ガ明カニ言ッテ居ル、當時ニ於テハ人造絹絲ハナカッタ、隨テ人造絹絲ガ問題ニナルコトハナカッタノデアリマスガ、若シ人造絹絲ガ今日ノ如ク多額ニ生産サレルナラバ、保稅工場ニ人造絹絲ヲ適用スルコトハ、私ハ法ノ精神ニ反スルモノダト思フ、殊ニ保稅工場ニ關スル人造絹絲ノ關係ヲ見マスレバ、一部ノ大企業者ニ保稅工場法ヲ適用シテ、伊太利ノ「ダンピング」ニ依ッテ非常ニ安ク出來ル原料ヲ以テ製造シテ、之ヲ外國ニ輸出スル者ガアリマスカラ、日本ノ中小以下ノ大多

數ノ企業者ハ、此保稅工場ヲ持ッテ居ル數個ノ工場ニ於テ製造サレタ物ト到底競争ガ出來ナイ、隨テ多數ノ企業者ニ非常ナ損害ヲ與ヘテ、一二ノ企業者ガ利益ヲ受ケル、而モソレヲ適用スルノハ稅關長ト云フ一行政長官ガ此權利ヲ行フコトニナッテ居リマシテ、今日ニ於テハ人造絹絲ニ保稅工場法ヲ適用スルコトハ甚ダ面白クナイト考ヘテ居リマス、況ヤ又之ニ依ッテ國策トシテ相當獎勵スベキ人造絹絲ノ製造業者ニ多大ナ脅威ヲ與ヘテ、即チ大部分外國ニ行ク我國ノ人造絹絲ガ、是ガ爲ニ多大ノ脅威ヲ受ケテ居ルト云フコトハ、大臣モ御承知ノ通りデアリマス、サウ云フヤウナコトヲ考ヘマスレバ、何トシテモ保稅工場法カラ人造絹絲ヲ取除ク必要ヲ吾々ハ認メル、併ナガラ既ニ既得權ノヤウニナッテ居ッテ、ソレガ爲ニ多額ノ利益ヲ得テ居ル工業家ニ、今之ヲ直ニ撤廢スルト云フコトハ困難カモ知レマセヌガ、併ナガラ將來ハ之ヲ適用シナイト云フコトハ當然ダト思ヒマス、又先日政府委員ノ説明ニモ、今日ノ大藏大臣ノ御説明デモ、將來ハ之ヲ擴張シナイト云フ御考デアッタト私ハ信ジテ居リマスガ、將來保稅工場ニハ、人造絹絲ニ付テハ擴張シナイト云フ御意見ヲ承ッテ置キタイ、此點ニ付テ明確ナ御答辯ヲ願ッテ置キタイト思ヒマス

○井上國務大臣 末松君ノ御質問ニ御答致シマスガ、此保稅工場ノ制度ハ之ヲ許可スルニシテモ之ヲ詮議スルニシテモ、實ニ非常ニムツカシイ問題デアリマシテ、人造絹絲ガ日本ノ重要企業トシテ發達シツ、アル、然ルニ先刻カラ申上ゲマス如ク、只今伊太利ノ絲ト日本ノ人造絹絲ノ絲價ト云フモノハ其間ニ數十圓ノ開キガアル、假ニ保稅工場ヲ人造絹絲ト申シマス企業ガ完全ニ發達セヌ前ニ、勝手ニサツサツシテ行キマシタナラバ、一方ニ如何ニ關稅ヲ高ク上ゲマシテモ、人造絹絲ノ事業ト云フモノガ發達シナイコトハ分ッテ居リマス、是程高イ關稅ヲ課ケテ、一方ニ人造絹絲ノ企業ヲ獎勵シナガラ、保稅工場ヲズンノ許シテ行キマシタナラバ、他ノ織物ノ殆ド大部分ガ輸出ノ織物デアルト云フ事情ノ下ニハ、非常ニ是ハ矛盾シタヤウナ關係デアリマス、同時ニ保稅工場ヲ許サヌト云フ問題ハ非常ニムツカシイ問題デアリマス、併ナガラ今御舉ゲニナリマシタヤウニ、既ニ數個ノ保稅工場ノ權利ヲ得テ實行シツ、アル所モアリマス、是ハ一方カラ言ヘバ、一種ノ與ヘラレタ權利ニナッテ居ルノデアリマス、ソレニシテモ末松氏ガ言レル如ク、保稅工場ト云フモノハ相當規模ノ大キナモノデナクテハ能ク堪ヘナイト云フコト

ガアリマシテ、一般何人ニモ人造絹絲ヲ以テ輸出織物ヲ織ル人ニ全部保稅工場ヲ許スト云フコトハ不可能ナコトデアリマス、隨テ保稅工場其モノ、中ニモ非常ニ不公平ナ不合理ガアルト云フヤウナ事情デアリマス、併ナガラ保稅工場ト云フ制度ガアリマス以上ハ、又之ニ對シテモ大藏當局トシテハ相當ニ考慮シナケレバナラヌ立場ニ居ル、サウ云フ事情デアリマス、ソレデ今般ノ人造絹絲ノ關稅ヲ下ゲマスコトモ大體ノ行クベキ道カラ言ヒマシタナラバ、關稅ヲ下ゲル、サウシテソレニ依ッテ人造絹絲ノ企業者モ生産費ヲ下ゲテ、關稅ノ保護ナシニモ外國品ト競争ノ出來ルヤウニスル、即チ内地ニ於テ人造絹絲ノ値段ガ段々下ッテ來ルト云フコトニナルノデ下ッテ來ルコトニナリマス、ソレヲ假ニ段段其目的ヲ達スルヤウニシマシタナラバ、保稅工場ノ必要モ段々薄ライデ來マス、ソコガ今度ノ關稅ノ引下ノ行クベキ大局ノ道デアラウト考ヘテ居リマス、ソレナラバ僅カ四割下ゲテモ足ラヌデヤナイカ斯ウ言ハレマスガ、百斤ニ對シテ百二十五圓ト云フ高い稅ヲ以テ今日マデ保護シテ居ルモノヲ、一躍シテ保稅工場ノ全體必要ノナイ點マデ下ゲマシタナラバ、今日ノヤウナ世界ノ此經濟界ノ非常ナ急激ニ變動シテ居

ル時「ダンピング」カ「ダンピング」デナイカハ分ラナイガ「ダンピング」ラシイ値段ノ安イモノガズンノ各國ニ襲來シテ來マス場合ニハ、折角發達シテ居ル日本ノ人造絹絲ノ事業ト云フモノハ大ナル打撃ヲ被ムルト思ッテ居リマス、隨テ私が申シマスレバ政府トシテハ今後日本ノ人造絹絲ノ生産費ヲ下ゲル、下ゲルヤウニ經理ヲシテ行カナケレバナラヌ、ソレニ應ジテ關稅ヲ段下ゲテ行クノダ、段々關稅ヲ下ゲテ行クト云フコトハ保稅工場ガ段々必要ノナクナルコトデアル、斯ウ見テ居リマスノデス、隨テ今般一度四割下ゲマシタカラ、直チニ最終ノ目的マデ達シテ居ルト云フコトハ申上ゲ兼ねマス、併ナガラ茲ニ大體ノ方針ヲ決メタ次第デアリマス、ソレナラ其間ノ保稅工場ハドウスルカト云フ具體的ノ問題デアリマス、只今申シマス如ク、保稅工場ヲ許スニシテモ許サヌニシテモ非常ナ慎重ナル態度ヲ以テ之ニ應ズル必要ガアルヤウナ關係ニナッテ居リマスカラ、其點ニ付キマシテハ全體ノ事情ヲ十分吞ミ込シテ置ク積リデアリマスカラ、其點ニハ御氣遣ヒ下サラズトモ宜カラウト考ヘマス、ソレカト云フテ、是ハ絶對的ニ許サヌカ幾ラデモ許スカドウスルカ、サウ云フ御質問ニ應ジマシテハ、保稅工場ノ制度ノアルモノデアリ

マスカラ、大藏省ノ當局トシテハ絕對
許サヌ、或ハ大ニ許シテ保稅工場ヲ盛
ニシマスルト云フヤウナルコトハ御答
辯申上ダ兼ネマスカ、今ノ事情ハ十分吞
込ンデ居リマスカラ、サウ御承知ヲ願
ヒタイト思ヒマス

○村田委員 極メテ簡單ニ御尋シマ
ス、第一ニ我國ニ於ケル人絹ノ生産費
ノコトデアリマス、此御調ベヲシテ戴
キタイ、最近五箇年位ノ材料、人件費
其他ノ費用ヲ計算ラシテ貫ヒタイ、サ
ウシテ若シ能フベクンバ各國ノ取引額、
我國ニ輸入スル各國ノ生産費ノ調査、
之ヲ第一ニシテ戴キタイ

第二ニハ關稅率ニ訂正ヲ加ヘラレマシ
タガ、我國ハ總テ産業合理化ガ時代ノ
要求トシテ高唱セラレマシテ、而シテ
我國ノ産業ヲ現在ニ救フノ道ハ、總テ
ノ生産ヲシテ此機會ニ健全ナル發達ヲ
ナサシムル爲ニ、本來ノ面目ニ立歸ラ
シムル大切ナ時機デアラウト思ヒマ
ス、隨テ關稅ニ依ッテ我國ノ産業ヲ調節
スルト云フコトモ又國策ノ一ツトシテ
考ヘナケレバナラヌコトダト思ヒマス
ガ、當局ハ此關稅法ニ向ッテ訂正ヲ加ヘ
マスル時ニ於テ、我國ノ産業ノ全部ヲ
眺メテ農林商工大臣等ト御相談ノ上
ニ、關稅定率ト云フモノヲ御定メニナッ
タノデアリマスカ、小川次官ノ本會議
ニ於ケル御説明ニ依レバ「政府ハ是等

二ツノ品目ニ付テ、關稅率改正ノ要否
ヲ關稅調查委員會ニ付議シテ」トアリ
マス、多クノモノ、中カラ此二ツダケ
ヲ選ンデ調査會ニ付サレタ、其特段ノ
理由、及ビ一般ノ品目ニ付テドノヤウ
ナ程度ニマデ考慮ヲナサレタノデア
カト云フコトヲ第二トシテ伺ヒタイノ
デアリマス

ソレカラ第三ニハ輸入人絹ノ關稅ヲ減
ゼラレマシタ目的ハ何處ニアルカ、先
刻來ノ御説明モアリマスカ、私共ニハ
マダハッキリ掴ムコトガ出來ナイノデ
アリマス、即チ我國ノ人絹ヲ材料トス
ル輸出品ガ餘程多イ、之ニ關係ヲ以ッテ
居ルト云フコトデアリマスカ、現在ノ
我國ノ人絹工場ノ生産力ヲ以テシテ
ハ、此重要ナル輸出品ヲ製作スル能力
ハナイ、足りナイト云フ御意見デアリマ
スカ、或ハ又外國品ヲ成ベク安ク我國
ニ輸入シテ我國ノ人絹ノ生産費ノ低下
ト云フコトヲ刺戟スル御心持デア
カ、或ハ又外國ノ輸入品ガ分量ガ少
イノデアアルカラ、此位ナ稅率ノ高イコト
低イコトハ、以テ人絹界ニ於ケル大ナ
ル動搖ヲ與ヘナイト云フノデアリマス
カ、此三ツノ中ノ何レデアアルカト云フ
コトデアリマス

第四ニハ今日ハサナキダニ總テノ産業
ガ脅威ヲ受ケテ居ルコトハ申スマデモ
ゴザイマセヌ、而シテ此人絹業ハ只今

貫ヒマシタ所ノ表ニ依リマスト云フ
ト、人絹——人造絹ノ輸出總額ガ三百二
十何萬圓、而シテ人造絹ヲ原料トスル
所ノ織物ガ二千二百七十何萬圓デアリ
マス、之ニ反シテ輸入總額ハ百萬圓未
滿デゴザイマス、此狀態カラ申シマス
ト云フト、色々ナ事情モゴザイマセウ
ガ、先ヅ人絹製造業ト云フモノハ現在
ノ産業界ニ於テハ比較的安定ヲ得テ居
ルモノト見テ宜カラウト思フ、此安定
ヲ得テ居リマスル産業ニ向ッテ、此關稅
ノ改正ヲ加ヘルト云フコトハ、兎モ角
一ツノ動搖ヲ與ヘルノデアリマス、不
安ヲ與ヘルノデアリマス、此安定シテ
居ル事業ニ向ッテ一ツノ「ショック」ヲ與
ヘルト云フコトハ、是ヨリ生ズル所ノ
有利ナ點モゴザイマセウガ、是ト同時
ニ半面ニ於キマシテハ動搖、不安ヨリ
生ズル所ノ損失モ亦少シトシナイノデ
アリマス、人絹製造業者ガ此關稅ノ制
限ニ向ヒマシテ之ニ反對ノ聲ヲ擧ゲテ
居リマスルコトハ、私ハ其立場ノ上カ
ラ諒ト致シマシテ、又以テ其事情ヲ知
ルコトガ出來ルト思フノデアリマス、
當局ガ、二千五百萬圓以上ニナリマス
ガ、是ダケノ輸入織物ノ輸入量ト致シ
テ、片方ハ九十萬圓、比較ニナナイ程
度デアリマスルノニ、今日此時ヲ選バ
レタ理由ハ何レニ存スルカ、理論的ニ
ハ良イコトデアリマシテモ、時期ノ如

何ニ依ッテ、産業ニ及ボス所ノ影響ハ少
ナカラザルモノデアルト私共ハ考ヘル
ノデアリマス、此點ニ關スル當局ノ所
見ヲ伺ヒタイデアリマス

○井上國務大臣 茲ニ提案致シテ居リ
マス木材ト人絹ノミヲ考ヘテ提案シタ
理窟ハ何處ニアルカ、斯ウ申シマス
ト、先刻御答致シマシタヤウニ、大體關稅
ハ、斯様ナ經濟上ノ變化ノアリマス時
ハ最モ注意シテ常ニ考ヘテ置カナケレ
バナラヌコトデアリマス、隨テ此點ニ
付テハ十分注意モ致シテ居リマス、ノ
ミナラズ來ル年度ニ於キマシテハ、一般
ノ稅ト鈞合ヲ取ッテ、全部ノ關稅品ニ付
テ内外ノ物價ノ狀態、生産費ノ狀態ヲ
考ヘテ一ツ研究シテ見ヨウ、斯ウ云フ
コトヲ考ヘテ居ルノデアリマス、併シ
茲ニ提案致シテ居ルモノハ、木材ノ關
稅ハ引上デアリマスカ、是ハ先刻御説
明申シマシタ如ク、昭和四年ニ關稅ヲ
引上ゲマシタ場合ニ、特殊ノ事情ヲ認
メテ上ゲズニ居ッタノデアリマス、然ル
ニ昭和四年ニ改正後ノ結果ヲ見マス
ト、其特殊ノ事情ニ依ッテ態ト安クシテ
ヤッタ稅ガ頗ル害ヲスルヤウニ考ヘル
ノデアリマスカラ、唯、單ニソレヲ是
正スル、斯ウ云フコトニシカ過ギヌ
デアリマシテ、一般ノ木材關稅ヲ上ゲ
ルトカ何ト云フコトデアナイノデア
リマス、然ラバ人造絹絲ノ問題ハドウカ、

斯ウ仰シヤラレマス、人造絹絲ガ茲ニ提案サレタ所以ハ、色々ナ理由ガアリマス、百斤ニ付キ九十五圓從量稅ヲ元ト上ゲマシタ場合ノ人造絹絲ノ値段ハ、最近ニナリマシテ何分ノ一ト云フ値段ニ下ツテ居リマス、隨テ從量稅ニ依ツテ稅關々稅ヲ定メタモノガ、今日百斤ニ百二十五圓ト云フヤウナ高イ關稅ニナツテ居ルノデアリマス、サウ云フコトガ今般改正シナケレバナラヌト云フ一ツノ理由デアリマス、モウ一ツノ理由ハ、日本ノ人造絹絲ハ内地ニ使用スルニアラズシテ、大部分ハ其絲ヲ用キテ輸出ノ織物ヲ拵ヘテ輸出スルノデアリマスルカラ、先刻末松君カラ御尋ニナツタ保稅工場ト云フモノノ請求ガ非常ニ澤山アルノデアリマス、即チ伊太利ノ絲ヲ輸入シテ行ケバ、日本ノ絲ヨリモ何十圓安イ絲ガ使ヘル、サウスレバソレニ依ツテ輸出ノ織物ヲ安クスルコトガ出來ルカラ利益ガ多イ、斯ウ云フコトニナリマス爲ニ、其方ノ要求ガ非常ニアリマス、一方ニハ關稅ヲ保護サレテ、一方ニハ大部分輸出ニナル物ヲ保稅工場ヲ要求スルニ從ツテ許シマスレバ、即チ關稅ヲ保護サレテ居ル理由ガ少シモ立タナクナルノデアリマス、サウ云フ事情ガ目ノ前ニ出テ參リマシタノデアリマスルカラ、是ハ大局ヲ一ツ定メルノガ必要ナラシムシヤラレマス、人造絹絲ガ茲ニアルカト言ヘバ、高イ關稅ヲ保護サレテ、内地ノ人造絹絲ガ非常ニ高イト云フコトハ、保稅工場カ何カソコニ設備ガナケレバ、外國ニ輸出スルモノガ非常ニ減ジテ來ルノダ、高イ内地ノ絲ヲ使ツテ居テハ、ソレダケ減ズルコトニナルカラ、大局論カラ行ケバ關稅ヲ安ク、サウシテ所謂關稅ノ蔭ニ隱レテ人造絹絲ガ、何ト言ヒマスカ、内地ニ高ク賣ルト云フヤウナコトノナイヤウニ、大局ヲ定メナクチャナラヌ、ソレナラ段々關稅ヲ下ゲテ行カウト云フコトニ致シマシテ下ゲタノデアリマス、ソレナラバ、最後ノ御説ノヤウニ、人造絹絲ガ日本デハ今安定シテ居ル、此時期ヲ選ンデ下ゲタノハドウ云フ譯カト言ハレルト、今日日本ノ人造絹絲ハ斯ウ云フ形ニナツテ居リマス、内地ノ需要ヲ充タシテ、只今仰シヤルヤウニ多少外國カラ出テ來マスガ、内地ノ生産ハ内地ノ需要ニ應ジテ餘リマス、隨テ今日ハ此人造絹絲ハ絲ノ儘デ支那市場ニハ輸出シテ居リマス、サウ云フ狀態ニナツテ居リマシテ、日本ノ需要ニ對シテ生産量ガ不足スルト云フ事情ハアリマセヌ、日本ノ人造絹絲ハ左様ナ狀態デアリマスガ、内ニ這入ッテ考ヘテ見マス、創業日尙ホ淺イ爲ニ、一方カラ申シマス、積立金ガ十分ゴザイマセヌ、御承知ノヤウニ、機械ヲ使ツテ居リマス、其機械ハ頻々トシテ磨減スルト云フコトガ一方ニアル、一方カラ申シマス、人造絹絲ハ非常ニ今日ハ改善改良ヲスル時代デアリマシテ、今日完全ナ機械モ明日ハ非常ニ古クナルト云フヤウナ有様デアリマスガ、扨テソレニ應ジテ行クダケノマダ積立金モ十分ナイ、斯ウ云フ狀態デアリマス、隨テ保稅工場ト申シマス、輸出絹織物業者ノ要求スルヤウニ、一躍シテ人造絹絲ノ關稅ヲ下ゲルト云フコトハ、人造絹絲ニ大ナル打撃ヲ與ヘルカラサウハ參リマセヌ、併ナガラ只今申ス如ク、結局ハ人造絹絲ノ生産費ヲ安クシテ、關稅ノ蔭ニ隱レテ保護シテ、世界ノ人造絹絲ヨリカ高イ人造絹絲デハ到底立チ行カヌカラ、段々之ヲ下ゲテ行カウト云フコトニナツタノデアリマス、ソレナラ人造絹絲ヲ斯様ナ經濟界ノ變動ノアル場合ヲ選ンデヤツテハ、非常ナ不安定ヲ來シハセヌカ、斯ウ云フコトデアリマスガ、御尤モノ御質問デアリマシガ、百二十五圓ノ割合デ關稅ガ掛ツテ居リマス、人造絹絲ノ生産費ハ調査ヲ致シマシテ御手許ニ差出シマスガ、ソレト伊太利ノ値段ト、關稅ノ狀態ヲ比較シテ下サイマス、四割下ゲマシテモ、人造絹絲ガ別ニ今日直チニ脅威ヲ感ズルト云フコトハ毛頭ナイ積リデア

リマス、併ナガラ今日ノ經濟狀態デアリマスカラ、將來非常ニ「ダンピング」ニ依ツテ、今日以下ニ何十圓モ伊太利ノ絲ヲ下ゲテ來ラレタラドウスルカト云フ、サウ云フ狀態ニ對シマシテハ、ソレハドウモ總テノ品物ニ對シテ同一デアリマスガ、「ダンピング」防止ノ箇條ヲ適用スルヨリ外ニ途ハナイ、斯ウ考ヘテ居ル次第デアリマス

○村田委員 私ハ此程度デ質問ヲ止メマスガ、私ノ先刻ノ御尋ネ致シマシタ本當ノ氣分ト云フモノヲ大藏大臣ニ味ッテ戴ケナイコトヲ私ハ遺憾トスル者デアリマス、即チ關稅定率ノ改正ノ如キハ國策ノ一部ヲ成シテ居ルモノデアリマス、商工、農林當局ト諮ツテ、何故ニ根本的ニ御立テニナラヌカト云フコトガ私ノ氣分デアリマス、大體金解禁ト云フモノニ對シマシテモ、政府ハ七月ニ組閣シテ十一月ニ解禁ノ準備全ク成レリト仰セラレタノデアリマス、私ハ邊陲ノ一書生デアリマスガ、十幾年ノ間、民政、政友、歷代ノ内閣ガ爲サント欲シテ爲シ能ハザリシ此問題ヲ、四箇月ニシテ解決シタリト仰セラレテモ、人間業ヲ通越サル限リ、左様ナコトデ吾々ハ安心スルコトガ出來ナイ、即チ解禁後ノ準備トシテハ、行政財政ノ根本的整理デナケレバナラヌガ、政府ハ近來盛ニ財政稅制ノ改正等ニ至ツテ

ハ議會終了後ニ於テ御着手ニナルト云フコトヲ新聞ニ宣傳サレテ居ルガ、如何ニモ證文ノ出シ遅レデアリマシテ、是ハ前ニ爲スベキモノデアル、官吏ノ減俸ニ致シマシテモ、何ニ致シマシテモ、其基礎的ノ案ハ其當時考究サルベキモノデアル、關稅法ノ如キモ——直ニ物價ノ低落ニ依ッテ産業ニ打撃ヲ加ヘルコトハ極メテ明白ナル事實デアルカラ、其對應策ノ一部トシテ關稅法ノ改正ヲ必然的ニ伴フモノデアル、是スラ閑却シテ、次官ノ御説明ノ如ク僅ニ二種目ヲ選ンデヤッテ居ルト云フコトデ、果シテ是ガ對策ト言フコトガ出來マセウカ、此問題ヲ斯様ニ閑却セラレ

ルコトヲ以テ見マシテモ、又他ノ方面ニ於キマシテモ、ホンノ當座暮シノ仕事ニノミ汲々トシテ此悲況ヲ招カシムルヤウナ計畫ヲ立テラレタノハ、全ク昨年二月ノ選舉ノ準備トシテ金解禁ヲ妄斷セラレタモノデアルト存ジマス、多分私ノ偏見デアラウト存ジマスガ、私ハ國民ノ一人トシテ、胸ノ中ニ潛ンデ居ル考ノ一端ヲ、此關稅定率法ノ審議ニ際シテ、現内閣ノヤルコトハ徹底的ニ——現在ノ國民ノ悲況ヲ例ニ取ッテハ恐多イガ、現在ノ我國ノ國民ノ生活ニ對シテハ輸血法ヲ行ハナケレバナラヌ時代デアル、其時代ニ首相ガ全ク健康ヲ缺カレテ、親シク國務ヲ御執リ

ニナルコトガ出來ナイコトハ千秋ノ恨事デアルガ、現在ノ狀態ハ、國務大臣ガ責任ヲ盡シタト言ヘルカ、盡サヌト言ヘルカ、私ハ非常ナ疑問ヲ持ッテ居ル、質問ハ此程度ニ控ヘマスガ、要スルニ私共ノ考ト大藏大臣ノ御説明トハ一致シナイト云フ不平ヲ申上ゲマシテ終リト致シマス

○岩本委員 只今ノ末松君ナリ村田君ノ御質問ニ關聯シテ伺ヒマスガ、將來伊太利ノ人絹ガ我國ニ「ダンピング」ヲ行ハレル場合ニハ之ヲ取締法ニ依ッテ相當ナ調節ヲ加ヘルト云フ御説明デアリマシタガ、是ハドウ云フ法律ニ御依リニナリマスカ

○井上國務大臣 ソレハ關稅法ノ中ニ「ダンピング」ニ對スル條令ガアリマス、其條項ヲ其儘適用スル場合ガアリマシタラ適用セザルヲ得ナイト考ヘテ居リマス

○岩本委員 然ラバ御伺致シマスルガ、昭和五年七月十一日ニ公布ニナッテ居リマス「ジュネーブ」會議ノ「ジュネーブ」條約ノ一部分ニ締盟國ノ生産物或ハ生産品ニ關スル條約ガアリマスルガ、之ヲ大藏大臣ハ如何様ニ御認メニナリマスルカ

○井上國務大臣 只今御學デニナリマシタガ、手許ニ持ッテ居リマセヌガ、不當廉賣トハ直接ノ關係ハナイト考ヘテ

居リマス、御承知ノ如ク關稅定率法第五條ノ二ニ「不當廉賣品ノ輸入又ハ輸入品ノ不當廉賣ニ因リ本邦ニ於ケル重要産業力危害ヲ被ルノ虞アルトキハ」ト云フコトニナッテ居リマシテ、其箇條ニ適合スルヤウナ安値ニシテ賣レバ、何時デモ之ニ依ッテ其程度マデ關稅ヲサツサト引上ゲルコトガ出來ルヤウニ政府當局者ニ法律ニ依ッテ其權利ガ與ヘテアルノデアリマス

○岩本委員 此「ジュネーブ」條約ハ今政府委員ノ御手許ニナイサウデアリマスルガ、ソレガナケレバ私ノ質問ハ徹底シナイト思ヒマスカラ、條約ヲ御覽下サッテ、次ノ時期ニ御答辯ヲ願ヒマス

○永田委員長 大藏大臣ニ御質問ハアリマセヌカ
「後デ材料ガ揃ッテカラ」ト呼フ者アリ

○岩本委員 本日ハ此程度デ散會サレタラ如何デスカ、材料ガ揃ヒマセヌカラ……

○永田委員長 農林省商工省ノ方ニ御尋ネニナルコトハアリマセヌカ(大臣ガオイデニナッテカラシマス)ト呼ブ者アリ)ソレデハ本日ハ此程度デ散會致シマス、明日ハ速記ノコトガ心配デスカラ、豫メ御約束ハ出來マセヌガ、公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ是デ散會致シマス

午後三時三十分散會

昭和六年三月十六日印刷

昭和六年三月十七日發行

衆議院事務局

印刷者 常磐印刷株式會社